

【メモ】

2/2 (木) 14:00 ~ 16:30

防災・減災の取り組み

講師 楠渡啓祐氏

大阪九ビル 参加者 約50名

内容 楠渡先生が元武雄市の市長であったことから、市長時代での防災・減災の取り組みが紹介された。特にその時に議員はどのように動いたのか。また、東日本大震災や熊本地震が発生した時に、武雄市はどのような支援を行ったのか。その支援をどう市政に活用したかの例が示された。

最近に防災・減災の事例としてタイムライン(時系列)について、又受け入れ体制の重要性、最後の防災教育について話で締めくくられた。

所感 市長時代に東日本大震災直後から市に「被災者支援課」を設置。市長が先頭に立って職員、議員、市民でチームを作って、さらに陸前高田市へ復興支援ボランティア活動をする。そのスピード感と統合力には大いに驚くべきところがあった。個々としてではなく行政としての早い対応、まさに市長のリーダーシップに付きると言う。熊本地震では近いということもあって多量の物資を送ったが、被災地の受け入れ体制が整っていないことからこれを教訓として受け入れの重要性を強調された。今までそういったように、むしろ支援物資を受け入れていかという視点はまったくなかっただけに、改めてその重要性を感じた。事実、神戸市などいわゆる「支援計画」を策定している自治体もある自治体であった。近年の災害発生状況を考えればある程度の想定とある程度の対応を準備しておく必要がある。その災害発生を事例として学んでいき、受け入れ体制(訓練などを通じて備えておく)行政としての安心安全に対する取り組みが1つありたいという。

今後 計画の中にタイムラインがあるのか。同市に「支援計画」があるのか。防災教育にはどのように取り組んでいるのか。を一般質問する方向で更に情報を収集して提案型で行くつもりで取り組んでいく。

2/3 (金) 作成

【メモ】 2/3(金) 10:00~12:30 教育革新のために議論ができること

講師 楠瀬啓祐

大阪丸ビル

参加費 約50名

内容 楠瀬氏が武相市長時代に取り組んで一定の成果があったICT教育と民間の塾と一体となって取り組む武相式「はるかなる学園」について
所感 そもそもなぜこのような教育を行ったのか。「生き残りを争う」という最大の目標。それをどう実現かに言及。「メンサ/入塾者 魅力のある大人」になり、どのような教育を行ったか。いつか? という疑問から生き残ったタブレットと電子黒板を運動させたICT教育に力を入れたというわけである。情報化社会の対応は今の社会。スマートフォンやタブレット等に代表される目覚め歩の早い、ソーシャルの進化の中で生き残るための取り組み。むしろ早いスピードで活用して、これをベースとして日々の授業で子どもたちがスムーズにストレスなく、おもしろく活用して、これを実現するにはタブレットも平成22年に小学校1校に40台導入して23年には2校に236台 現在では全市立小中学校に1人1台(小学校3153台、中学校1550台)を整備するに至っている。実際の授業の映像も見たが、このタブレットを活用した授業を「デジタル学習」と呼んでいる。学業の向上の成果も佐賀県平均の比較の中で示された。もうひとつの民間の学習塾とのタッグについて、これも成果が上がっているようにあるが、この話を聞くと、もうこれ見定めよう(必要があるか)という気がした。民間のノウハウや力を活用するのは大いに価値に思われる。教育はむしろ幅広く、先生が先生自身の向上に専念でき、最優先であるという。

今後 ICT教育については、将来的にも必要であると考えているので、来年度先進地を視察して、詳しく研究したい。それを踏まえて一般協会で提案していきたいと考えている。

【メモ】 2/2 (金) 14:00 ~ 16:30 先進自治体ササニ組んでいる地方創生

講師 桶渡隆祐

大阪丸ビル

参加費 40名

内容 先進自治体 vs 停滞自治体という比較の中で ホームページの情報発信力について、比較分析し、それが歴然となっていくという例を示し、そうして停滞する自治体にさらすヒント。そしてそのヒントが導かれた CCC と マナブは 武庫川図書館の例を示した。同市も 1930 年に 駅前図書館を CCC と組んで、より改めて再確認した。

所感 桶渡元市長は他市に模倣して市政に足跡を残した。有るところは 図書館 市民病院の民営化、ICT 教育、等々。こうした実績は約によって導かれた。9 つのヒント。二カ（インバト）あり 大まか収束であった。すなわち

1. 意気込みは感服する
2. 成功力より修正力
3. 逆風は体の向きを変えれば通り風
4. 前例がないを打ち破る
5. 勝率ゼロでも 1 勝 9 敗でもいい
6. スピードは最大の付加価値
7. 話の素朴さ 目指す
8. TPP 「徹底的にバグる」
9. 組む

自治体トップのスピード感。7-7-7 の良さをフルに活かしてリーディングアゲイカに大まかに市政の推進力とつながる。その差が歴然とつながる。そしてその中で反対勢力がいかにもすさみかけた。笑いを誘うながらも「緩さよる人海をいかに」も笑った。これはあつた。その中で「寛容」と信念をもって市長たるトップは市民のために先頭に立ちます。すなわち

1/3 後 質疑応答の中で 同市市 駅前図書館について同じ「必が成功はす」という答えがおいさま返ってきた。創始者たる桶渡氏の二言集を、同市役所は市民にぜひ伝えたい

3/5 (土) 作成